

建設用アルミ電線の能力増強

古河電工産業電線

30年度めどに3.5倍に拡大

古河電工子会社の電線メーカーである古河電工産業電線だ。

(本社・東京都荒川区、社長・徳田繁氏)は、戦略製品に位置付ける建設用アルミ電線Ⅱ写真Ⅱの製造能力を、2030年度までをめどに23年度比で約5倍に増強する。銅製電気導体を用いた従来製品と比べて軽く施工性に優れるほか、素材価格が安価で太陽光発電所での盗難防止に寄与する利点などから伸びを見込む。導体材料のアルミ線を燃り合わせる工程に投資するな

どして増産を進めていく考えだ。高機能型低圧アルミ導体C Vケーブル「らくらくアルミケーブル」は銅導体ケーブルと比べ3〜5割軽量。また柔軟で取り回しなどがしやすいほか、絶縁体を小さな力ではぎ取れることも利点で、施工作業性が高い。電気工事に必要な人数を平均4割程度抑えられることから、さまざまな電気工事現場での人手不足への対応に寄与できる。徳田社長は「アルミ電線に興味を持った顧客が施工面で心配なく使える体制を整えている」と話す。工具の貸し出しサービスも安価なことから現在、社会問



安価で軽量の素材に“脚光”、太陽光発電での盗難防止にも寄与

題となっている太陽光発電所などでの電線盗難の防止にも貢献。盗難防止のための提案や盗難に遭った発電所での復旧対応などに力を入れる。盗難対応のニーズに保険会社との連携も進めながら応える考えだ。

増産に向けて電気導体の材料となる線を伸ばす伸線加工や、燃り合わせる燃線加工について銅で使用している既存設備を整備するなどしてアルミ電線専用設備にする考え。また来年度上期までをめどに数億円を投じて燃線設備を造設する方針となっている。樹脂を被覆する押出工程については銅・アルミ双方で使用できるが、設備の稼働率を高めることでアルミ電線の製造能力を確保する。

